

校長通信 『道標(みちしるべ)』 第1号

令和2年4月16日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



若商生の皆さん、健康状態や自宅学習の進み具合はいかがですか？

本校ではクラス担任の先生から健康チェックをはじめ、臨時休業終了後の学校生活が躓(つまづ)くことなく始めるための指導や、学習状況の指導及び臨時休業中の家庭での生活について、電話での確認や相談を定期的に行っています。

困ったことや不安等があれば、遠慮なく先生に相談してください。

さて、臨時休業期間の学習の合間、心身のリフレッシュのため室内にて身体を動かすことと読書をお勧めします。

4月23日(木)～5月12日(火)まで「こどもの読書週間」があります。これは、子どもの頃から書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力を付けること、人生を豊かにすることを目的に、昭和34年(1959年)に始まりました。

学校が臨時休業でなければ私から直接生徒の皆さんにおすすめの本を紹介する予定でした。今回は「校長通信」としてご紹介します。

校長先生からのおすすめの本



杜子春(芥川龍之介 著)・・・読みやすさ★★★★★

芥川龍之介は日本を代表する作家です。「蜘蛛の糸」「トロッコ」などの子ども向けの作品から「羅生門」「鼻」「藪の中」など内容の深いものもあります。その中でも「杜子春(とししゅん)」は子ども向けの作品ですが、親子の愛や、人は財産や名誉よりも大切なものがあることを伝えています。短編なのですぐ読めますよ。

さぶ(山本周五郎 著)・・・読みやすさ★★★★

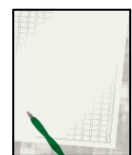
なんでも器用な「栄二」と朴訥(ぼくとつ)な「さぶ」。二人は幼いころから仲の良い友人です。あるとき、無実の罪で栄二が島流しにされました。他の罪人とも口を利かず、会いに来た親友のさぶにも冷たく接します。しかし、栄二の苦しい時、普段は冷たく接していた罪人たちが、自分のために命も顧みずに力を貸します。友情のすばらしさと若者が精神的な成長を遂げる感動の物語です。

こころ(夏目漱石 著)・・・読みやすさ★★★

高校では「現代文B」でも触れる傑作です。

この小説の主人公である「先生」は、昔友人を裏切り死に追いやった過去を負い、罪の意識に悩みつつ生きる。物語は語り手である「私」が「先生」と出会い、先生の過去が描かれています。こころの奥底にある様々な感情が見事に表現され、人のこころの複雑さを感じとることができます。

「学びて思わざれば則ち罔し(くらし)」(論語)



*本をただ読むだけではいけません。読んだ内容を自分の頭で深く考え自分のものにしてください。そして、人生の様々な場面で活かしてください。